

健康センターでの放射線被ばくについて

放射線被ばくは人体に影響を与える危険性があり、健診で受ける検査の放射線被ばく線量を気にされる方も多いと思います。

各検査にはベネフィット（恩恵）とリスク（損失）があります。放射線検査のベネフィットは、がん等の病気を早期に発見し、適切な治療に導くこと、また特に不具合がなくても『悪い病気かもしれない…』という不安を解消することができます。同時に、何度も繰り返し検査を受け、被ばく線量が増加すると、がん発生のリスク増加なども懸念されます。

放射線被ばくをむやみに恐れるのではなく、正しく理解したうえで、ご自身に必要な検査を受診していただくことが大切です。

当センターで放射線を使用する検査については、被ばく線量をできるだけ少なくするように努めております。およその被ばく線量は下記の通りです。

健康リスク（※）

- ◆ 確定的影響：脱毛・白内障・紅斑 等
受けた被ばく線量が多いと症状が重くなります
最も少ない被ばく線量で出る影響は紅斑で、**2000mSv** の被ばくで影響が出るとされています
- ◆ 確率的影響：発がん・白血病・遺伝的影響 等
必ず影響が出るのではなく、被ばく線量が多くなると影響の出る確率が高くなります

○ 毎年繰り返し検査被ばくがあった場合

私たちの体は傷ついた細胞を修復する機能を持っています
ある線量を何回かに分けて受けた場合には、同じ線量を一度に受けた場合より健康リスクは小さくなると言われています

100～200mSvの被ばくでがん発生リスクは1.08倍になると言われており、継続喫煙 運動不足 野菜不足 多量飲酒などの生活習慣を要因とするがん発生リスクと比較してかなり小さいと考えられます

当センターの各ドック（オプションを除く）を受診した場合の合計被ばく線量は下記のごとくです

- 二日ドック：約1.6mSv
- 一日ドック（胃カメラコース）：0.1mSv未満
- 一日ドック（胃バリウムコース）：約3mSv
- 成人病健診（胃検査なし）：0.06mSv

当センターの検査被ばく線量

大腸CT	6～15mSv
PET/CT	4～7mSv
胃バリウム	2～4mSv
冠動脈CT	1～3mSv
健診用低線量胸部CT	1～2mSv
内臓脂肪検査（CT）	0.1～0.2mSv
マンモグラフィ	0.05～0.15mSv
胸部レントゲン	0.06～0.1mSv

自然放射線（※）

日本年間平均 約2.1mSv/年
宇宙から 約0.30mSv
大地から 約0.33mSv
食物から 約0.99mSv
その他 約0.48mSv
世界年間平均 約2.4mSv/年
東京・ニューヨーク往復
0.11～0.16mSv

※ 環境省HPより